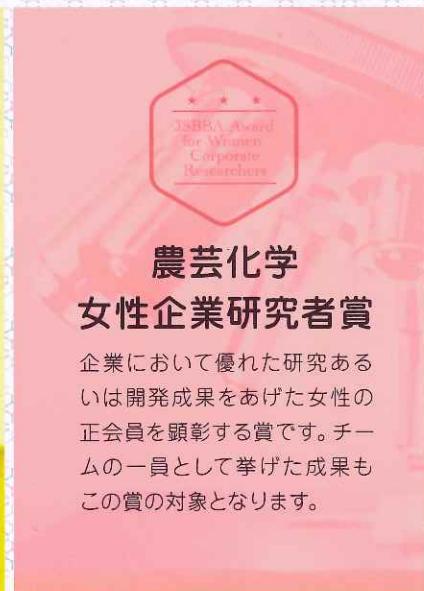


お知らせ

女性研究者のための賞 2018年度受賞者

内閣府の第5次科学技術計画(平成28年度～32年度)では、
女性の能力を最大限に発揮できる環境を整備し、
その活躍を促進していくことが不可欠である、と謳われています。
農芸化学分野においても、研究および産業の発展を図るためには
女性研究者的人材育成と各分野での活躍が必要です。
そこで、日本農芸化学会は大学、公的研究機関、企業等で
研究あるいは開発に従事し優れた成果を挙げている女性正会員を
“支援”し“可視化”することを目的に、3つの賞を2017年に創設しました。
このたび、農芸化学女性研究者賞、農芸化学若手女性研究者賞、
農芸化学女性企業研究者賞の2018年度受賞者を決定しました。

公益社団法人日本農芸化学会会長 佐藤 隆一郎
男女共同参画担当理事 裏出 令子、熊谷 日登美



■ 2018年度 ■

農芸化学女性研究者賞 受賞者(3名)



大田 ゆかり 氏

【国立研究開発法人
海洋研究開発機構・グループリーダー代理】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「海洋微生物からの有用機能の探索とその応用」

■ 大田ゆかり 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

決して実験が上手な学生ではありませんでしたが、ただ楽しくてもっとやりたいという思いで今日に至ります。実験の中で自然の素顔がほんの少し見えたとき、興奮と安堵の混じった喜びを感じます。でもすぐに次の疑問に向かって、また相変らず実験の始まりです。人生に模範回答は無いと言われますが、結果だけでなくプロセスを楽しむことで、やりがいが生まれる循環が作れたら、毎日が充実しそうと感じています。



古園 さおり 氏

【東京大学
生物生産工学研究センター・特任准教授】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「細菌の環境応答と適応に関する分子生物学的研究」

■ 古園さおり 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

研究を職業とする人生を歩いてきましたが、最初から研究者志向だったわけではありませんでした。物事を探求することの喜びと苦労がありますが、考えぬくこと、あきらめずにやりぬく胆力が鍛えられたように思います。私たちの生活と密接に関係することが多い農芸化学分野は、地に足のついた感性を大切にする女性が活躍できる場が多いと思います。専門性とプロ意識を身につけ、アカデミックでも企業でも社会で活躍する女性が増えていってほしいと期待しています。



齊藤 安貴子 氏

【大阪電気通信大学 工学部・教授】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「有機合成を基軸としたフラバン-3-オール誘導体の
機能性解明研究と栽培現場への貢献を目指した研究展開」

■ 齊藤安貴子 氏からのメッセージ ■ MESSAGE

天然有機化合物の美しさと無限の可能性に魅了され、農芸化学の世界にどっぷりとまいる込んで今に至ります。他人と違っても、研究者として生きてもいいじゃないか、と後押ししてくれたのも、農芸化学の先生方・先輩方でした。実はまだ育児で大変なのですが、カッコ悪くあがいている姿をお見せするのも私の役目だと考えています。農芸化学には女性研究者を生かしてくれる環境があります。悩んだら飛び込んでみるのも良いのではないでしょうか。

◀ 2018年度 ▶

農芸化学若手女性研究者賞 受賞者(3名)



梅川碧里 氏

【京都大学大学院 生命科学研究科・
日本学術振興会特別会員(RPD)】

◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「微生物を活用したN型糖鎖代謝酵素の機能解明とその応用」

◀ 梅川碧里 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

高校生の時、「微生物を用いて環境汚染物質を分解する」という内容の講演を聴き、興味を持ったことがきっかけで農学部に進みました。「環境浄化」とは随分異なるものの、今まで、微生物と酵素を扱う研究に取り組んできました。面白いと思う事程、なかなか解けないハードさはありますが、小さな発見を積み重ね、研究を通じて世界中とつながる喜びは何物にも代えがたいものだと思います。人生は一度だけ、自分の興味と可能性を大切に、2歩、3歩、踏み出してみてください。



戸田安香 氏

【明治大学 農学部 農芸化学科
食品機能化学研究室・専門研究員】

◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「味覚受容体の新しい機能解析技術の開発と
味覚受容の分子機構の解明」

◀ 戸田安香 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

学生時代は獣医学を専攻しました。動物好きが高じて、現在は様々な野生動物とヒトとを比較しながら、味覚という化学感覚を理解しようと奮闘しています。研究職は特に若いちは不安定な職業ですし、多くのライフイベントを抱える女性には選択し辛い道かもしれません。しかし、最近では女性研究者をサポートするための制度が次々と作られています。新しいことを世界で初めて発見し、世の中に貢献できる可能性を秘めた研究職という仕事はとてもやりがいがあるものだと思います。



山下陽子 氏

【神戸大学大学院 農学研究科・特命助教】

◀ 受賞題目 ▶ AWARD SUBJECT

「プロシアニジンの高血糖・肥満予防効果に関する研究」

◀ 山下陽子 氏からのメッセージ ▶ MESSAGE

研究は、誰も知らないこと、思いも寄らないことを自ら実証していく事ができます。尽きることの無い可能性が、オリジナリティーに富んだ道を拓かせてくれると感じています。私は、そんなワクワクする面白さに魅了され、今に至ります。研究生活は日々多くの発見や学びの場を与えてくれます。私は、ヒトの健康維持増進と食に関する研究を続け、社会に貢献していきたいです。女性研究者のみなさんと、益々研究分野を盛り上げて行きたいと願っています。

■ 2018年度 ■

農芸化学女性企業研究者賞 受賞者(3名)



石本容子氏

【第一三共株式会社・専門研究員】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「血管成熟化促進作用を持つ新規天然物vestaineの同定」

■ 石本容子氏からのメッセージ ■ MESSAGE

食を通じて健康を維持するメカニズムを研究したいと思い、農芸化学に進学しました。現在は薬理系研究者として、薬の種となる候補物質の評価や作用機序の検証をおこなっています。企業では様々な専門部署があり、お互いの協力のもと1つのテーマを進めています。自分の立てた仮説を自らの手で検証でき、また、優れた結果が出た際に皆で喜びを分かち合えるのが、この仕事の醍醐味だと感じています。



堤浩子氏

【月桂冠株式会社 総合研究所・
主任研究員 兼 技術情報課長】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「清酒副産物の機能性ペプチドに関する研究」

■ 堤浩子氏からのメッセージ ■ MESSAGE

大学で微生物（酵母）の研究に携わり、微生物の研究が楽しいと思いました。微生物を研究開発の対象としてものづくりがしたいという思いから、企業へと進み、研究開発を行っています。微生物や醸造・発酵の研究開発は、まだまだ未開拓な領域もあって、奥が深くてとても面白いです。自分が面白いと思う分野へ挑戦して、視野や世界を広げていってください。様々な人の出会いやチャンスも「一期一会」です。良い出会いは、自分の世界を広げる強い味方になると思います。



松井知子氏

【ノボザイムズジャパン株式会社
研究開発部門・代表】

■ 受賞題目 ■ AWARD SUBJECT

「タンパク質工学を利用した産業用酵素の開発」

■ 松井知子氏からのメッセージ ■ MESSAGE

高校の頃からバイオテクノロジーに興味を持ち、バイオ関連の研究者になりたいと思っていました。企業研究員という道を選びましたが、大学の時から興味を持っていたカビを使った有用物質生産に携わることができ、幸運だったなと思います。自分の開発した酵素が世界市場に出回って使われるのを見て得られる達成感は半端なく大きいです。一人娘も後を追ったのかバイオの道に。親としてもうれしいですね。皆さんも是非、この世界に挑戦してみてください。